2025 年 3 月 10 日(月)

希望の牧場　～命の意味を問う～

あなたは知っているでしょうか、「希望の牧場」という農場があることを…。福島第一原子力発電所から北北東へ 14km、福島県浪江町川房と南相馬市小高区にまたがる地に、その牧場はあります。それが吉澤 正巳さん(70)が経営する「希望の牧場」です。

今から 14 年前、浪江町には牛 3,500 頭、豚 3 万頭が飼育されていました。しかし、3.11 東日本大震災による福島第一原発事故で 30km 圏内は警戒区域になり、近隣住民は一挙避難を余儀なくされ、すべて動物の飼育不可能になってしまいました。人が立ち入ることのできなくなった牛舎や豚舎では家畜はみるみる飢えて衰え、骨と皮だけになって死んでいきました。

こうした中、吉澤さんは「警戒区域に残された動物たちは、皆かわいそうだ。が、一番救われないのは、家畜だ。家畜はどこまでも切ない。」と考えて避難を拒み、300 頭以上の牛を生かし続けてきました。それが「希望の牧場」です。牛は全頭被曝していおり、もちろん移動も牛肉としての出荷もできません。エサ代もかかりますし、世話をする人間も被曝してしまいます。でも、吉澤は「あの日」以降も留まり続け、牛の世話をして来ました。毎日欠かさず早朝、牛に餌をやり、牛の餌をトラックで取りに出かけます。変わらぬ日々が牛の命が尽きるまで続きます。牛たち 185 頭は、今日も元気に生きています。

なぜ、被曝して売れなくなった牛を生かすのでしょうか？吉澤は次のようにこう言います。「俺は牛飼い、命をムダにはしない。牛は、原発事故の生き証人、ここで生き続けることが、原発の存在を問いかけ、命の大切さを訴えることになる」と。もの言えぬ 3.11 原発事故の生き証人である牛たちとともに、「命の意味を問う」日々の活動は今日も続いています。それには、皆さんの支援も必要です。

ところで、昨日(3 月 9 日)朝 5:00 ～ 6:00、NHK『こころの時代　～宗教･人生』にて「185 頭と 1 人 生きる意味を探して」と題して「希望の牧場」について再放送(2023 年収録)がありました。3 月 15 日(土)午後 1 時から再々放送もあります。多くの人に見てもらえれば幸いです。

参考図書
森 絵都･作, 吉田 尚令･絵(2014)『希望の牧場』岩崎書店, 大型本 32 ｼﾞ.